

「失われた村の風景を記憶しなおす」プロジェクト



なりわいが 結ぶ 山・村・人 移転集落の風景を記憶の窓として

記録写真展

2019.10.25 [金] から 2020.1.5 [日] 9:00 から 22:00 11月28日は休館 12月29日から1月3日は年末年始休館 観覧無料

黒川郡大和町升沢の暮らし <なりわい>が結ぶ山・村・人 一移転集落の風景を記憶の窓として一

会期 2019年10月25日(金)～2020年1月5日(日) *11月28日は休館、12月29日から1月3日は年末年始休館
会場 せんだいメディアテーク 7階ラウンジ
時間 9:00～22:00
料金 観覧無料

企画者在廊日

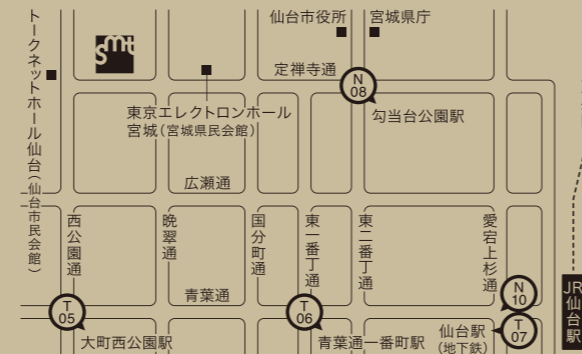
本展示の企画者、小田嶋 利江が展示会場に滞在します。

2019.11.7 [木] 11.21 [木] 12.5 [木] 12.19 [木] 12.26 [木] いずれも 11:00 から 15:00

主催 「失われた村の風景を記憶しなおす」プロジェクト
せんだいメディアテーク
助成 一般財団法人 地域創造

smt メディアステディーズ 当プロジェクトは、せんだいメディアテークの事業「メディアステディーズ」の一環として実施されています。
メディアステディーズ ※ https://www.smt.jp/projects/mstudies/

お問い合わせ
せんだいメディアテーク 企画・活動支援室
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
Tel 022-713-4483 Fax 022-713-4482 https://www.smt.jp
office@smt.city.sendai.jp



地下鉄……………南北線勾当台公園駅から徒歩約6分。東西線大町西公園駅から徒歩約13分。
バス……………仙台市営バス 仙台駅前60番(仙台TRビル前、地下鉄仙台駅「中央2」出口前)のりばから「定禅寺通市役所前経由交通局大学病院」行き(系統番号がJまたはXで始まるバス)で約10分、メディアテーク前下車。
タクシー……………仙台駅西口タクシー乗り場から約7分。
車……………東北自動車道仙台宮城ICから約10分(約5.3キロメートル)。メディアテーク地下に有料駐車場あり(近隣にも民間の有料駐車場あり)。

この紙はリサイクルできます

日米軍事演習を契機に、90年代末に集団移転がなされた、黒川郡大和町升沢地区。升沢の記録保存調査に参加していた手代木信成氏が撮影した移転前後の村の人々のくらしや、自然の風景の写真、300点以上を村に生きた人々から聞いた言葉とともに紹介します。失われた最奥の村の風景を記憶の窓とし、かつてあった山に向き合う村の人々のくらしを思っ……

「失われた村の風景を記憶しなおす」プロジェクト

いま、宮城県黒川郡大和町升沢地区には、集落としての姿はない。しかし、かつてここには、船形山(ふながたやま)への登山口となる最奥の村があった。藩政時代、出羽へ抜ける街道の関所として藩の御番所が置かれ、近代は薪炭などの山林資源の供給地となり、戦後は用材の伐り出しでにぎわい、いまは船形山登山口として登山者に親しまれている。かつての村は、船形山系の広大な自然に抱かれ、山間集落のくらしの伝承をとどめていた。村に鎮座する船形山神社の古風な作神祭りは、かつては郡域をこえた多くの参詣者でにぎわった。

2000年の升沢の集団移転にあたって、大和町と東北民俗の会*の共同で、村の伝承全般についての記録保存調査が行われ、その調査に参加していた同会の手代木信成氏によって、移転前後の村の家々や人々、そして村のくらしや自然の風景が、多数の写真によって記録された。

調査報告書刊行後、手代木氏の手元には、報告書に収録しきれなかった多くの写真が未公開のまま残されていた。当プロジェクトは、これらの写真約3000枚をデジタル化し、各写真を軸に、撮影内容・状況・背景・周辺のエピソードなど、撮影者や関係者からの情報を立体的にまとめることを目的とする。その活動は写真を介した村の再記憶となり、その成果は村への記憶の窓ともなるのではないだろうか。

*東北民俗の会
1960年(昭和35)に、宗教学者である堀一郎を初代会長として発足した東北地方の民間民俗学研究会。



1



2



3



4



5



6



7



8



9

升沢集団移転と 升沢民俗調査

1996年(平成8)、升沢地区に隣接する陸上自衛隊王城寺原(おうじょうじはら)演習場が、沖縄米軍の実弾射撃訓練を受け入れ、その砲撃音などの補償として、1997年から升沢地区集団移転事業が開始された。2000年には村人はすべて、家を解体し土地を更地にして、麓の三峰地区に集団移転した。

そんななか、1999年から2003年まで、大和町と東北民俗の会の共同で、升沢地区の民俗全般を対象にした記録保存調査が行われた。その調査に参加していた手代木信成氏は、移転前後の村の人々のくらしや自然の風景などを多くの写真として記録した。その中の一部は報告書『升沢にくらす一集団移転に伴う調査報告書一』(2003 東北民俗の会・宮城県大和町教育委員会)に収録されたが、その他多くの調査時の写真は、未公開のまま手代木氏の手元に保存されていた。

1 一本ぞりで材木をおろす

一本ぞりに切りだした材木をつけ、腕木でかじを取りながら雪の斜面をすべりおろす。上に乗るのは孫たち。

2 炭窯にこめる木を割る

木炭を焼くために丸太を割って棚に積む。後ろの三角の木組は炭窯の上に架けた屋根。割った木は窯の中に立て並べられる。

3 ポンテン*を肩に山頂をみざす

船形山神社の祭礼では、豊作祈願のポンテンを男たちが奪い合う。かつて境内にあふれた信者たちが崖から落ちることもあったという。

4 升沢集落、師走の雪景色

升沢集落をつらぬいて船形山登山口までのぼる本道。その両側に村の草分けである旧家のイグネ(屋敷林)の古木が見える。

5 升沢橋から見た厳寒期の荒川

升沢地区を構成する下原・種沢・升沢は、いずれも荒川の河岸段丘上に村が営まれた。かつて升沢橋は丸太橋で、川の増水によってしばしば流された。

6 雪をかぶった茅葺民家の奥に 船形山系の峰を望む

升沢で茅葺屋根のまま一棟だけ残っていた家。棟にはりだした煙り出しと、家を囲むイグネ(屋敷林)の杉林が見える。

7 早春の雑木林、水仙の群落

芽吹いたばかりの明るい雑木林の若葉の下には黄色い水仙の群落が広がる。

8 男たちのお茶っこ飲み

お茶っこ飲みは女たちだけのものではない。男たちのお茶っこでも山盛りの漬物と山菜の皿が並ぶ。

9 授かったポンテンを 田の水口に供える

船形山神社の祭礼で争われたポンテンは小さなポンテンに小割りにし、田植えのとき田の水口にさして豊作を祈る。

*ポンテン
長い棒や竹の先に白い紙や布を着けた神具。厄を払ったり、神への供え物にする。